

障害者支援施設 緑風園

1 施設の課題と取組方針

(1) 『心豊かな暮らしづくり』

ア サービスの質の向上

課 題	利用者、家族の意向に沿うサービスの提供
現 状	<p>満足度調査等を実施し、利用者ニーズの把握に努めているが、個別支援を充実させるには内容が不十分である。さらに利用者ニーズが汲み取れるよう内容を精査し、実施方法の再検討を行う必要がある。また、利用者ニーズを的確に把握することで、意思決定支援を進め、個別支援の充実を図っていく必要がある。</p> <p>家族のニーズについては、個別支援計画の作成時にアンケートを実施しているが、回答率は低くなっている。家族（親世代）の高齢化や、後継家族（親族等）へ移行が進み、家族との関係性が薄れたことが要因と思われる。今後は、実施方法の検討を行い、個別支援計画についての理解を深めてもらい、家族との関係を強化していく必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度調査等の内容や実施方法を改善する。 ・満足度調査等の結果を分析し、ニーズを的確に把握する。 ・実現可能なニーズは、実現に向けた支援を早期に実施する。 ・担当者会議への家族の参加率向上を図り、個別支援計画の理解や家族との関係を強化する。

イ 利用者の暮らしの保障

課 題	利用者の安心安全な暮らしの保障
現 状	<p>事故の報告件数は多いが、ヒヤリ・ハットの報告件数は少ない。また、同様な事例が繰り返し生じており、改善に向けた職員の共通認識や検証が不十分である。事故防止対策の取組みを進め、重大事故に繋がるようなヒヤリ・ハットへの「気づき」の視点を醸成させる必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・事故対策部会の機能を強化し、ユニット会議などでの事例検討を実施し、「気づき」の視点と意識を高める。 ・研修を実施し、リスクマネジメントの基礎知識や事故防止の取組みについて理解を深める。 ・効果的な事故防止策を検討し、事故対策マニュアルを改善する。

課 題	利用者の権利擁護の促進
現 状	職員のセルフチェックでは、多くの職員が高評価としているが、不適切な声掛けや応対などの権利擁護の配慮に欠ける状況が散見される。利用者の権利擁護や尊厳を守るため、接遇マナーの向上に取り組んでいく必要がある。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の振り返りツールを検討し、自己啓発に繋がるような環境を整備する。 ・人権についての研修や話し合いの場を計画的に設ける。 ・第三者の目を入れ、風通しのよい環境を整備する。

ウ 福祉ニーズに即したサービス提供

課 題	在宅要支援者へのアプローチ
現 状	<p>現在も通所の利用者を受入れているが、送迎サービスを実施しておらず、利用者ニーズに的確に対応できていない。また、施設入所支援の利用者が大半を占める生活介護での受入れとなっており、通所の利用者への支援が不十分である。</p> <p>生活困窮者等、福祉サービスを受けていない利用者のニーズがある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズに対応できるよう、送迎サービスを実施する。 ・生活介護の体制を検討し、通所利用者への支援を充実する。 ・生活困窮者等、福祉サービスを受けていない利用者を受入れる。

(2) 『活力に満ちた職場づくり』

ア 人材の確保と定着

課 題	人材の確保と定着
現 状	中山間地で、都市部などへの人口流出が多いこともあり、地域の若者の雇用が進んでいない。離職者もあり、職員の定着化が必要となっている。また、短時間労働の希望が多く、準職員の雇用に繋がらない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関等との連携を密にし、UI ターン者などの求職者の動向を把握し、積極的に求人活動を実施する。 ・非正規職員の定着化を図るため、正規職員の指導担当者制度に準じた取り組みを実施する。

イ 人材の育成

課 題	サービス向上に繋がる人材の育成
現 状	<p>自己研鑽の研修参加や派遣研修受講者は増加してきたが、復命報告等のフィードバックができておらず、職員の理解度や実践への結びつきは十分とはいえない。</p> <p>園内研修については、回数、内容とも充実してきたが、未受講者について</p>

	<p>の対策が不十分である。</p> <p>非正規職員への体系的な研修の取組みが不足しており、モチベーション向上のためにも充実させていく必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・研修講師を担う職員のサポートを行い、復命研修を積極的に実施する。 ・未受講者への内容伝達などのフォロー体制を確立する。 ・分かりやすいチェックシートやマニュアルなどを活用し、OJT を日常的に実施できるよう全職員のスキルアップを図る。

ウ 職場環境の改善

課 題	職員の健康管理意識の高揚
現 状	<p>業務のストレスが大きく、職場全体での健康意識を高めていく必要がある。</p> <p>健康の自己管理意識の向上、定期健診後のフォロー及びメンタルヘルスの取組みを進めていく必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会の機能を強化し、職場環境を整備する。 ・職員の心身の健康維持を図るため、関連団体（日本精神看護協会等）を活用した出前講座を定期に開催する。 ・臨床心理士のカウンセリングを実施する。

エ 業務の改善

課 題	情報共有の徹底
現 状	<p>業務系システムを使用した記録等の情報共有はできているが、タイムリーな情報の共有が不足している。また、多職種間においても情報共有が不足している。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・文書の閲覧方法等を検証し、スムーズな情報共有を図る。 ・情報の伝達方法等を検討し、多職種間での確実な情報共有を図る。

(3) 『快適な住まいづくり』

ア 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	グループホームの基盤整備
現 状	<p>平成 28 年度に 2 棟を新築したが、他 3 棟のグループホームは古民家であるため、バリアフリー構造でなく、老朽化も進んでいる。また、この 3 棟は傾斜地やアクセス道が狭い場所に点在するため、立地条件が悪く、管理が難しい。利用者や世話人の確保の困難さを踏まえ、グループホームの再編を進める必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の高齢化を見据えたグループホームの修繕を進める。 ・老朽化したグループホームの改廃を、利用者の状況をみながら進める。

(4) 『安定的な経営の基盤づくり』

ア 収支の安定化

課 題	安定した利用者の確保
現 状	中山間地特有の人口減少と、近隣地域に福祉事業所が多数あるため、入所待機者が減少し、利用者の確保が困難な状況にある。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接市町村など、広域に営業活動する。 ・障がい種別を限定せず、あらゆる潜在利用者を開拓する。 ・関連事業所や支給権者に空床情報を発信する。

2 中期経営計画数値目標

(1) 利用率

事業名	定員	H28 実績	H29 見込	H30 目標	H31 目標	H32 目標
施設入所支援	85 名	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%
生活介護	90 名	93.7%	93.0%	94.0%	94.0%	94.0%
就労継続支援 B 型	15 名	94.4%	90.5%	93.5%	93.5%	93.5%
短期入所	4 名	28.3%	35.0%	25.0%	25.0%	25.0%
共同生活援助	26 名	94.6%	87.5%	94.0%	—	—
共同生活援助	24 名	—	—	—	96.0%	96.0%

(2) 固定資産購入計画

(単位：千円)

固定資産名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
電動低床ベッド (更新)	474	474	474
中型除雪機	994		
厨房用 ブリクサー (更新)		227	
厨房用 検食用冷凍庫 (更新)		300	
厨房用 電気湯沸器 (更新)		210	
厨房用 恒温高湿庫 (更新)		550	
厨房用 クリーンロッカー (更新)		300	
厨房用 消毒保管庫 (更新)		1,800	
厨房用 冷蔵庫 (更新)		313	
厨房用 ゴミ倉庫 (新規)		400	
厨房用 ライスミニ (更新)			1,700
厨房用 冷蔵庫 (更新)			1,400
公用車 (10 人乗り) (更新)			3,500

(3) 修繕計画 (10 万以上～ 大規模修繕を除く)

(単位：千円)

工事名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
小破修繕 (1 件 10 万円未満合算額)	3,500	3,500	3,500
屋上防水修繕	4,100		
貯水タンク漏水補修	840		
グラウンド入口簡易舗装	350		

(4) 大規模修繕

(単位：千円)

工事名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
空調設備改修工事	158,645		